

投稿規定

- 一、投稿枚数は、「立教大学日本文学」のフォーマットに照らして14頁（29字×50行×14頁）以内とします。
- 二、原稿は縦書きを原則とします。横書きによる掲載を希望する場合は、投稿前に必ずご相談ください。
- 三、原稿は完全清書原稿とし、注・引用その他の形式は、既刊のものに準拠してください。場合によっては体裁の統一を図らせていただきます。
- 四、原稿は手書き原稿・プリンター印字原稿を問わず、二部提出してください。
- 五、プリンター印字原稿の場合は、原稿二部と併せて電子媒体（CD・ROM、USBメモリー等）でデータを提出してください（電子媒体の返却はいたしません）。メールによる提出（rikkyonhonbungakuhensyu@gmail.com宛）も可能です。データをメールで提出する場合は、その旨、原稿郵送の際に編集担当者までお伝えください。
- 六、査読担当委員は、外部の有識者を含め、会長がこれを委嘱します。
- 七、執筆者校正は論文・書評について初校のみ。ただし論訂正は最小限度にお願いします。
- 八、論文執筆者には掲載誌三部・抜刷四〇部を進呈します。
- 九、「立教大学日本文学」は雑誌として刊行すると同時に立教大学のリポジトリにも登録され、掲載原稿の全文をPDF化したうえでオンライン公開します。投稿された原稿については、その旨、ご承諾いただいたものとなります。ただし、論文内に用いられた写真・図版などについては、その部分に限って、原則として電子化の対象から外すこととします。
- 十、原稿のメ切りは、五月の連休明け最初の月曜日と一二月の連休明け最初の月曜日です。

編集後記

△毎年、六月に開催されてきた立教大学日本文学会は、今年度もコロナ禍により開催の見通しが立っていません。大学院生のみならず研究に対するモチベーションの維持が難しくなっていると思いますが、巣籠り生活のなかで論文の執筆に集中できる時間が増えたと考えられることもできるのではないでしょうか。

△本号には、本学大学院OGである園山千里氏の「平安時代の宮廷文学における和歌の掲載と実態」（原著ポランド語）の書評が掲載されていますが、執筆者の沼野充義氏は同書について、「日本初めの日本文学研究者によっておそらく史上初めてポランド語で書かれた日本文学研究書である。このことをまず特筆しておきたい。」と紹介しています。日本文学研究の成果が国境を越えて世界に開かれていくのは、本当に素晴らしいことだと思えます。園山氏に続く新しい世代の研究者が数多く現れることを期待します。

△長年に亘って立教大学日本文学会の事務を担当されてきた森定慶子さんは、二〇二一年七月をもってご退任されました。これまでの森定子さんの誠実なお仕事と学会へのご尽力に対して心からお礼申し上げます。なお、後任には本学大学院OGの李愛理氏が就かれます。

△「立教大学日本文学」第一二七号は二〇二二年一月に刊行予定です。多くの学会員からの投稿をお待ちしています。

*本会への入会申込・会費など、電話によるお問い合わせは、下記のサポートセンターまで。

会費 一年 四〇〇〇円

立教大学日本文学会

振替 〇〇一四〇一八一―二二三三三三

「書評」欄に関する規定と 献本のお願

「立教大学日本文学」は学会員の著作を広く紹介することを目的に、下記の原則にそって「書評」、「新刊紹介」欄を設けています。

一、「書評」、「新刊紹介」については、著作の一冊を立教大学日本文学会に献本いただいたものを対象とする。

一、献本いただいた著作については、原則として「書評」または「新刊紹介」を掲載する。

一、「書評」（執筆は非学会員も含めた有識者）、「新刊紹介」（執筆は大学院生または本学教員）の区別については、編集委員会が適宜判断する。

立教大学日本文学 第一二六号

二〇二一年七月二十五日 印刷

二〇二一年七月三十日 発行

編集発行人

立教大学日本文学会

加藤 睦

〒171-8501 東京都豊島区西池袋三―三三―四―一

サポートセンター

電話（〇三）三九八五―二五〇五

印刷

上毛印刷株式会社